

地域のために 未来のために
筑波銀行

Tsukuba Bank

茨城県南に密着した地域紙

常陽新聞

日刊

月～土曜発行 第526号

<http://joyonews.jp>

2015年(平成27年) 10月14日(水)

発行所: 常陽新聞株式会社

〒305-0031 茨城県つくば市吾妻3-10-13

☎029-869-9800(代) FAX029-869-9836

月額購読料(電子版セット)2,080円(税込2,246円)

購読申し込み ☎ 0120-104-298 1部税込み100円

自家栽培「つくほう米」販売



筑峯学園は、1923年(大正12年)に現理事長の祖父・島野豊四郎さんが設立。障がい者施設としては日本で一番目に古い歴史がある。家庭で養育できない知的障がい児の入所施設だったが、時代とともに施設の形も変化。現在は、成人の知的障がい者が農作業や果樹栽培などを実践する。現在グループホームの利用者45人と通所者19人の計64人の知的障がい者たちが、コメや野菜、果物、原木しいたけなどを栽培している。昨年から施設の食

利用者の絵 パッケージに

筑波山麓の知的障がい者施設に、つくほう米として商品化。ホームページで公開すると、埼玉の老人ホームの理事長が直々手で絵を描いて、つくほう米は、1キロ3500円で販売してお

る。障がいを持つ利用者たちは、大きな木の根を掘り起こしたり、落ち葉を集めたり、寝転んだり、それぞれが施設では晴れた日の反響があつたといふ。施設では、晴れた日は農作業をし、雨の日は室内で絵を描いたりして、約6分の水田を整備作業を行っている。

今年からユメのパッ

ケージを、利用者が描いたイラストを使いオリジナルパッケージの

つくほう米として商品化。ホームページで公開すると、埼玉の老人ホームの理事長が直々手で絵を描いて、つくほう米は、1キロ3500円で販売してお

る。障がいを持つ利用者たちは、大きな木の根を掘り起こしたり、落ち葉を集めたり、寝転んだり、それぞれが施設では晴れた日の反響があつたといふ。施設では、晴れた日は農作業をし、雨の日は室内で絵を描いたりして、約6分の水田を整備作業を行っている。

今年からユメのパッ

ケージを、利用者が描いたイラストを使いオリジナルパッケージの

記者の
つぶやき

筑波山麓

の森の中

に、木で作

った手づく

り台、ブランコ。烟に

り台、ブランコ。烟に